

定義内容のインターフェイス調査

- ・ テーブル、インデックスの項目定義の表示
- ・ パッケージ、プロシージャ、ファンクションの呼出し引数
- ・ 生成されているオブジェクト名の一覧

1. SQL*Plus にて、オブジェクトの呼出しインターフェイス調査)

- ・ テーブル、インデックス、の項目定義の表示
- ・ パッケージ、プロシージャ、ファンクションのインターフェイス（呼出し引数）

DESC オブジェクト名

describe テーブル名

※ オブジェクトにパッケージ名だけを指定すると、プロシージャ名、ファンクション名の一覧とその引数の一覧が表示される

(使用例)

DESC パッケージ名

PROCEDURE	Argument Name	Type	IN/OUT	Default
FCOPY	SRC_LOCATION	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	SRC_FILENAME	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	DEST_LOCATION	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	DEST_FILENAME	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	START_LINE	BINARY_INT	IN	unknown
FCOPY	END_LINE	BINARY_INT	IN	unknown

プロシージャ、およびファンクションの引数に関する情報

・
・

FGETPOS(FUNC)<RETURN VALUE> BINARY_INT OUT unknown

ファンクションの戻り値に関する情報

・
・
・
・

2. 生成されているオブジェクトの一覧表示（データディクショナリ）

```
select table_name FROM user_tables ;      ***_indexes などもあり
select table_name FROM all_tables ;
select table_name FROM dba_tables ;
```

データディクショナリの指定の仕方 ###_names FROM ***_###

対象オブジェクト *** 指定範囲 ###	table	index	view	synonym	object
user：自身のスキーマ範囲（定義者）					
all：自身が使用できるオブジェクト範囲					
dba：システム全体					

```
SELECT object_type, object_name, status FROM user_objects
       order by object_type, object_name ;
```

ここで、status が「INVALID」となったものが、エラーが発生しているオブジェクトです

```
select username from dba_users ;
```

3. OEM（Oracle Enterprise Manager）での操作

[スキーマ] タブ→データベース・オブジェクト・セクションの「表」or「索引」or「ビュー」

スキーマ

オブジェクト

この2つに文字を入れて、 ボタンをクリックすると、検索ができます

出力された結果一覧のオブジェクトの名前部分をクリックすると、データ型、項目の定義サイズを表示できます